

登録コード	EKG03900	開講年度	2026				
授業科目	病弱児の理解と支援					担当教員	宮地 弘一郎 他
英文授業名	Study of Students with Health Impairments					副担当	奥村 真衣子
単位数	1	講義期間	前期	曜日・時限	火曜・4時限		履修学年
講義室	教育E 106			授業形態	講義	備考	2020年度生～
信大コンピテンシー	該当						
(1)【授業の達成目標】	【授業で得られる「学位授与の方針」】				【授業の達成目標】		
	26EAカリ, 25EAカリ						
	教育の専門職としての学識・技能					特別支援教育専修免許状（病弱領域）の取得および当該領域の専門性を高めるための知識と支援方法論を修得する。	
	26EAカリ, 25EAカリ, 24EAカリ						
	子どもの多様なニーズへの対応力					病弱教育対象となる子どもの多様化を理解し、その時代時代のニーズに合わせて対応する力を身に着ける。	
(2)授業の概要	病弱教育の対象は医療や社会背景の変化と共に変遷してきている。また近年，小児医療のセンター化が進められる一方で，地域では混合病棟が増加し，入院児の環境が多様となっている。これらの現状を深く理解し，多様な病弱教育対象児の教育保障と自己実現について考える。 ・授業は，講義および演習形式で行う。 ・講義とディスカッションから，病弱児の様々な制約要因と支援ニーズについて理解する。 ・高度な医療ケアを要する超重症児の現状と教育上の課題について理解し，発達援助のための科学的アプローチや多職種連携による連携支援について学ぶ。 ・病弱児の教育や心理支援に関する最新の知見について，受講生が文献を調査し発表する。						
(3)授業計画	第1回 入院児の理解と支援1：現代の病弱教育の対象 第2回 入院児の理解と支援2：入院児の生活環境と制約要因，支援体制 第3回 入院児の理解と支援3：演習（入院児の教育および心理支援における最新知見の検討） 第4回 超重症児の理解と支援1：超重症児の臨床像，概念の変化，制約要因 第5回 超重症児の理解と支援2：演習（超重症児の教育に関する最新知見の検討） 第6回 病弱教育の関連領域 第7回 総括：今後の病弱教育を考える						
(4)成績評価の方法	演習における発表内容（30％），討論（30％），最終レポート課題（40％）の成績を総合して評価する。 ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90％以上 秀，89-80％ 優，79-70％ 良，69-60％ 可，59％以下 不可						
(5)履修上の注意	受講者の主体的な努力が強く要求されるので，このことを承知しておくこと。						
(6)質問,相談への対応および連絡先	メールまたは研究室訪問により対応する（アドレスは時間割表に記載）。研究室訪問は常時受け付けるが，なるべく事前に訪問日時を相談すること。						
(7)成績評価の基準	多様な病弱教育対象児の教育保障と自己実現に関わる研究を自ら展開するための知識理解とその活用能力について 秀(S)：授業の達成目標の水準から見て卓越している 優(A)：授業の達成目標の水準よりかなり上にある 良(B)：授業の達成目標の水準よりやや上にある 可(C)：授業の達成目標の水準にある 不可(D)：授業の達成目標の水準よりやや下にある 不可(F)：授業の達成目標の水準にない						
(8)事前事後学習の内容について	専門性の高い幅広い知識内容を習得する必要がある科目であり、授業で講義する内容はその基礎的内容である。演習の準備や事後学習を通して十分な予習・復習を行い、さらに授業で講義した内容やキーワードについて図書館等を活用して調べ学習を行い、知識の習得と内容の理解を図ること。 なお本科目は、授業と授業外の自主学習を合わせて45時間程度の学習を原則とする。						
【教科書】	特になし。必要に応じて資料を配布する。						
【参考書】	適宜紹介する。						